

時事新報

朝鮮の騒動と如何

せん

近頃の報知に據れば朝鮮の各地に蜂起したる暴徒は勢
ます。一、狙撃にして容易に鎮定の模様なきが如し最初
暴徒の口實とする所は政府の斷髮令に不服なりとの一
事なりしに新政府は詔勅を發して暴徒蜂起の原因は斷
髮令の爲めに非ず去年十月八日の變亂を憤りて不逞の
暴徒に及びたるものなれば今や當時の元惡、罪に服し
たる上は自から解散す可し云々として征討の兵隊を引揚
げたれども彼等は毫も解散の色なきのみならず、亂
暴を逞うするも不思議の次第なれば我輩の所見を以て
すれば其原因は斷髮令の履行に非ず又去年十月の事
變にも非ず所在の暴徒等が政府の政令の行届かざるに
乘じて徒黨を結んで地方を横行し亂暴を働くは毎度のと
にして近年來殊に著しく彼の東洋黨の如き何か目的に
てもあるが如くなれば實際は是種の亂民にして百姓
一擧に外ならず只政府に鎮壓の力なきを以て徒に其騷
動を大ならしめたるのみならず一昨年の戰爭に支那人の
亂暴一方ならずして財産家屋を失ひたるもの多く人民
の難境の上もなれば政府に於ては救助の手段を
講ざるより殆んど衣食の道に窮し相率つて盜賊を事
とするの外なき有様にて暴徒の蜂起は目前の有様なり
しに幸に日本の守備隊が内地の所在に駐屯したるを以
て彼等は其兵威に畏れて敢て暴を逞うししもの其後守
備隊もたひひに引揚げて畏る可きものなきに至り
しに之を忽ちに鎮壓して所在に蜂起したる次第なり現
その暴徒は彼國の内事にして吾々他國人の事も顧みず
ざる所なれば現に暴徒の害に遭ふたる日本人も少な
からず目下の事情、内地の旅行等は甚だ危険にして開
城及び平壤邊に出張の商人などは既に京城仁川に引揚
げたりと云ふ斯る有様にては商賈貿易も到底行はる可
らざして我國の利益に關するも容易ならざる次第な
れば何と云ふ其始末を付けざる可らず甚だ小人敢な
らざるも目下尙ほ電報關係の爲めに日本兵の各所に
分屯するものあるを以て彼の暴徒も未だ大事に至らざ
れども其兵隊は單に電信保護の爲めにして来り暴
徒蜂起の任務を帯ぶるものに非ず然かも彼等に襲撃せ
られて死傷したるものありと云ふ何れにしても此
處に付するを得ざるものなり或は彼の政府に威嚇して
治安の責に任せしむ可しなとの説われども政府自身
維持さへも難なき其政府に如何なる事と説いたれば
とて容易に其の明かざるは明白にして無益の勢にふ
るれば目下差當りの急は彼國に駐劄する各外國使臣の
會談を開き其本國政府の意見をも確めたる上、外國の
兵力を以て國內鎮壓の任に當らしむるより外に手段は
なかる可し彼の政治の改良は各國協同して共に從事
するも差支なければ兵力の一段に至りて各國共同の
兵を以てするが如きは實際に行はれ難きものとせば是
非とも或る一國の兵力に依頼せざる可らず從來の行掛
りよりすれば其以前は俄に我が國に歸するものとす
らざれば其後には會談の結果として何れに決するも差
支はる可らず我輩は只一日も早く其事を決し彼の國
内の治安を安定して外國人の生命財産を安全ならしめ
る爲め貿易の無事に行はれんと希望するものなり

北蕃の調書

其色黒く眼光炯々として殺氣を帯び一見猛悍雄偉の種
族たるを知るべし毛髪は墨色にして男子は皆結髮し長
髪五寸より一尺餘位にして少々兩側を蓬髮せり小統領
以上の者は大抵鬚にて作りたる半面形の帽を戴くを見
る五六歳に至れば鬚に刺墨し人を殺すれば即ち妻を
娶るを得、妻帯せば頂項にも同様の刺墨をなす赤脛靴
足にして着て草鞋を穿たず砂礫の中密林の間を走るも
平地の如く健捷殆んど猿に似たり身には恰かも我が
陣羽織の如き短衫を穿ち上に風呂敷様のものを纏ひ輝
なくして三尺帯の結び目を前に垂れて陰部を蔽ふのみ
性赤色を好むを以て服類は赤糸を以て編みたるもの多
し故に遠くより望めば古代の排織を穿てるかと思はる
而して寒暑の分なく只一什を着するのみ身長と雖も服
飾あるのみにて別に異ならず指環腕環の如き者も數多
指赤色布の如く刺墨したるものを胸前に掛け首には
被殺者の齒を連環にして懸ひたるあり又藥品等を掛け
たるものあり耳環は甚だ奇にして曲尺にて直徑三分、
長五分、大の九竹を兩岸に貫き其内には魚鱗等を入
れたるものあり或は白色鹿角製の飾物を付けたるもの
あり腰の邊には二尺餘の反り身の刀を横へ其鞘は朱塗に
して被殺者の頭髪を鞘の下部に付けたるあり背部には
麻繩の太きものを以て編みたる袋を負へり是れ腰に出
でし鳥獸を入れたり種々の物品を入れたり争鬪を爲すに
は敵の首級を入るゝ等に用ふるものなり餘隊は長さ六
七尺の竹竿に入寸位の短形の矛を付けたる槍を持
銃或は銅帽銃等を所持するあり婦人は束髮にして後
方に捲き付け飾なく挿花なし但珠環にて頭部を飾る
るあり五六歳の時頃に刺墨し并するに及べ兩眼も亦鼻
の狀に刺墨して兩耳の邊に連環も亦刺墨す衣服
は男子に異ならずも只風呂敷様のものは男より寛
且つ長きものを肩より掛けて腰膝を蔽ふに至らしめ
て陰部を蔽ふ腰には脚絆を穿てるあり短衫の如き男子
よりは多く紅布を用ふるのみ然れども武器を携帯せず
外出の時袋中に多く東西を入れて背負を見る
女人兩眼に鳥嘴狀の刺墨をなすは外社の老婦來て刺す
を要し男人の項項に刺すは其社の朋友兄弟之をなすの
例なり

眞術上の發明

獨逸のロレントゲン博士は
人體の皮膚筋肉を透して骨のみに寫す法を發明した
るよし此事の内外に知れ渡るや學者社會の一大問題と
なりぬ今その眞術の大要なりと云ふを記さん此眞術の
作用に由てクルックス管より生ずる光線は人間の視
力を以て見分け難き程に細微なる者にして當に皮膚、
筋肉、木理のみならずアルファム松とも透過するの力
あり而して眞術の法は此光線を生ずる機械を、寫し取
らんとする者の前に置き寫眞板を機械の後面に置き時
は光は其機械の形を板に寫し出す可し博士は此方法を
用ひて箱中の貨幣と手の數骨とを寫せり但し此眞術の
學理に就ては未だ研究を盡さざる所あるを以て博士は
假りに之を放射線と呼び特殊の名稱を附するに至らず
獨逸は新聞紙上に此發明ありしものと聞及び早速博
士を宮中に招き面前に於て其眞術を演ぜしかば博士は
ガイムレル及びクルックス管を用ひ木板の後に置きた
る物體と箱の中に入れたるものとの形を寫したり此時
眞術を見物せし人々は眞術、皇太后、皇后其他の貴族に
して博士が眞術の由來を説明せし時には何れも熱心に
傾聴し眞術に水中に又光線の少しも漏れせずして眞術に

英國大藏總裁の

トに於て演説して曰く
大なり長し露西亞が大陸
るも決して心に關する
露國初め世界各國が露
上に登するも多し
○支那人と國民田
開に於て一エムカ
日清戰爭には余輩の
人間否な兵士間に國
露を喫せざるを得ず之
被すれば其欠乏一層較
露の國民を一統したる
せんばあらず支那人
るかの理由に至りては
那官吏の重なるもの
間に共同一致を欠く
物事に冷淡なるものと
○片澤秀次郎氏の
なりし間氏は過般來病
死去したるよし

學海の

世界に日本の
太陽及び其他幾多の星
我世界の大氣の中には
に於ても我地球上に新
間に對する答は二様の
なるも其速度の低きも
瓦斯の數學的理論(Bo
進としてワンストン
の演説したる説に據れ
區域の中に限り入れら
質量にして生物の住居
久の存在を爲すも能は
に飛ぶる可しと云へ
界を去る分子は決して
る速度はVibrating
に由て定まれ瓦斯の
大氣の分子は一秒に平
の速度に於ての速度
り其内、酸素及び窒素の

歌して之を賀す婚姻の期は當者十七八歳、或は二十
三四歳なりとす富家は富家に嫁し貧家は貧家に嫁す
の例各々階級に依る若し兩漢一女を相争ふらば各々
互に銃槍を提げて野に出没の日を期して豚尾漢の首を
斬るも多きものも以て好漢とし之に嫁するを常とす
家人死するれば別に棺を用ひず踏坐して兩手に膝を
抱かしめ膝にて全身を縛り再び布毛氈の類にて骸
を包み之を米倉の傍に埋葬し死人所持の諸物件は悉
く其傍に埋め錫を頭上に戴かしむるの例あり墓標なく
單に平地となす亦時として死人臥床の傍に埋むるあ
るも室内の埋葬は甚だ少なし葬式の當日は親戚初め外
來人なく其翌日牛を屠り酒を供へて親戚朋友來會し
宴を開くものとす
葬儀、婚姻其他關聯の時杯に酒宴を開くは勿論なれど
も一の奇なる例あり何時に拘はらず猪鹿の大なるもの
を獲れば即ち酒食を具へ獲物を殺し親友と會飲す猪肉
は水にて煮、半熟のとき刀を以て之を切り一人一塊
肉を與へ竹筒は徳酒を盛り兩人合飲するは親密
の意なり酒罷にして來人歡喜跳舞曲竹を以て笛と
作し吹鳴するに俾あり風神體中々面白し吹の如き
も音吐高低あるが如く情あるが如し一人の飲量は半
斤より二十斤に至るを常とす
神佛なく禮拜なし日月を拜する如きもなし
盜賊追刺等の惡徒なく戸を閉ぢずして寝ね田圃等に於
ても決して他の物を害するものともし眞に七八歳の小兒
の如く惡意ありて做す如きものと絶えてなし
善人の嗜好する者は酒、烟草、赤毛布、耳飾、頸飾等に
して酒を嗜むは此種族の通性なるが如く男女老弱を問はず
酒を嗜むと恰も水を飲むが如く其酒量の大なる幾干
なるを知らざるなり又喫煙は男女の差なく凡そ七八歳
に至れば悉く喫するの風あり且つ赤色を好むと云ふ
く堂々たる大壯士目も雖も一片の赤布を見れば之を欲
する嬰兒の如し南蕃人も亦嗜好北蕃に同じ (未完)

眞術上の發明
獨逸のロレントゲン博士は
人體の皮膚筋肉を透して骨のみに寫す法を發明した
るよし此事の内外に知れ渡るや學者社會の一大問題と
なりぬ今その眞術の大要なりと云ふを記さん此眞術の
作用に由てクルックス管より生ずる光線は人間の視
力を以て見分け難き程に細微なる者にして當に皮膚、
筋肉、木理のみならずアルファム松とも透過するの力
あり而して眞術の法は此光線を生ずる機械を、寫し取
らんとする者の前に置き寫眞板を機械の後面に置き時
は光は其機械の形を板に寫し出す可し博士は此方法を
用ひて箱中の貨幣と手の數骨とを寫せり但し此眞術の
學理に就ては未だ研究を盡さざる所あるを以て博士は
假りに之を放射線と呼び特殊の名稱を附するに至らず
獨逸は新聞紙上に此發明ありしものと聞及び早速博
士を宮中に招き面前に於て其眞術を演ぜしかば博士は
ガイムレル及びクルックス管を用ひ木板の後に置きた
る物體と箱の中に入れたるものとの形を寫したり此時
眞術を見物せし人々は眞術、皇太后、皇后其他の貴族に
して博士が眞術の由來を説明せし時には何れも熱心に
傾聴し眞術に水中に又光線の少しも漏れせずして眞術に